

《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第9週のインフルエンザの推定受診者数は約48万4000人となり、4週連続で減少が見られた。減少傾向は今後も継続していくが、その速度は緩やかなものとなる
と予想される』

2017年3月7日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第9週（2月27日～3月5日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は483,602となり、第6週以降4週連続して減少が続いています（図1）。休日明けの月曜日（3月6日）の推定受診者数は97,884と5週連続して前週の月曜日の値よりも減少がみられており、第10週（3月6日～3月12日）も減少が続くと予想されます（図2）。

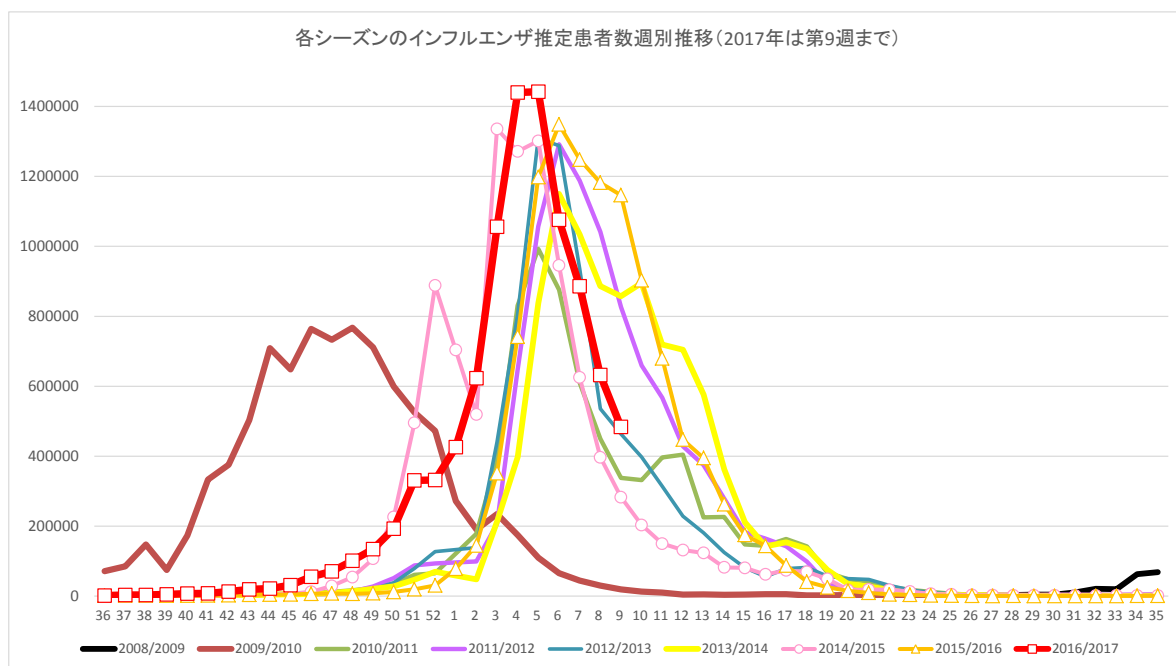


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第9週の推定受診患者数= 483,602）

2017年3月7日（3月6日分更新）

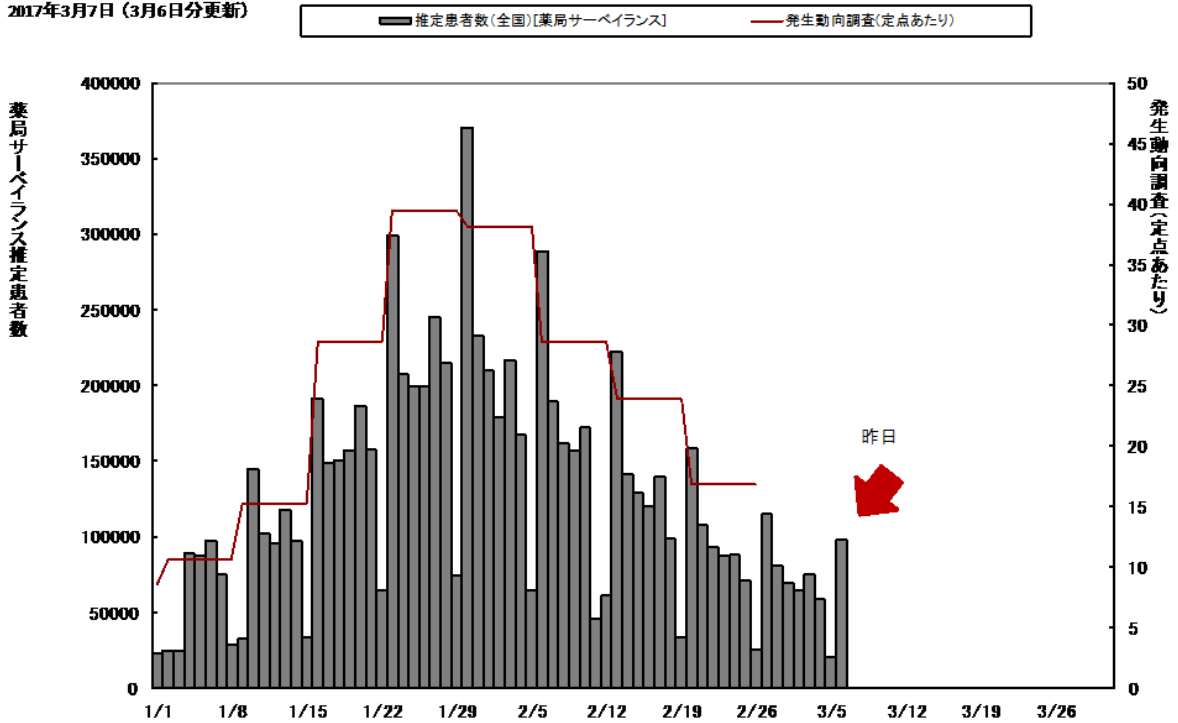


図2. インフルエンザ推定受診患者数の日別推移(2017年1月1日～2017年3月6日；2017年3月6日の推定受診患者数= 97,884)

2016年第36週から2017年第9週までの累積の推定受診患者数は9,394,153であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、推定の累積罹患率は約7.40%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳（25.30%、約134万人）、10～14歳（22.51%、約124万人）、0～4歳（16.09%、約83万人）、15～19歳（13.38%、約80万人）、30～39歳（6.95%、約106万人）、20～29歳（6.75%、約86万人）、40～49歳（6.15%、約117万人）、50～59歳（5.36%、約82万人）の順となっています（図3）。全ての年齢群で罹患率の減少が続いています。

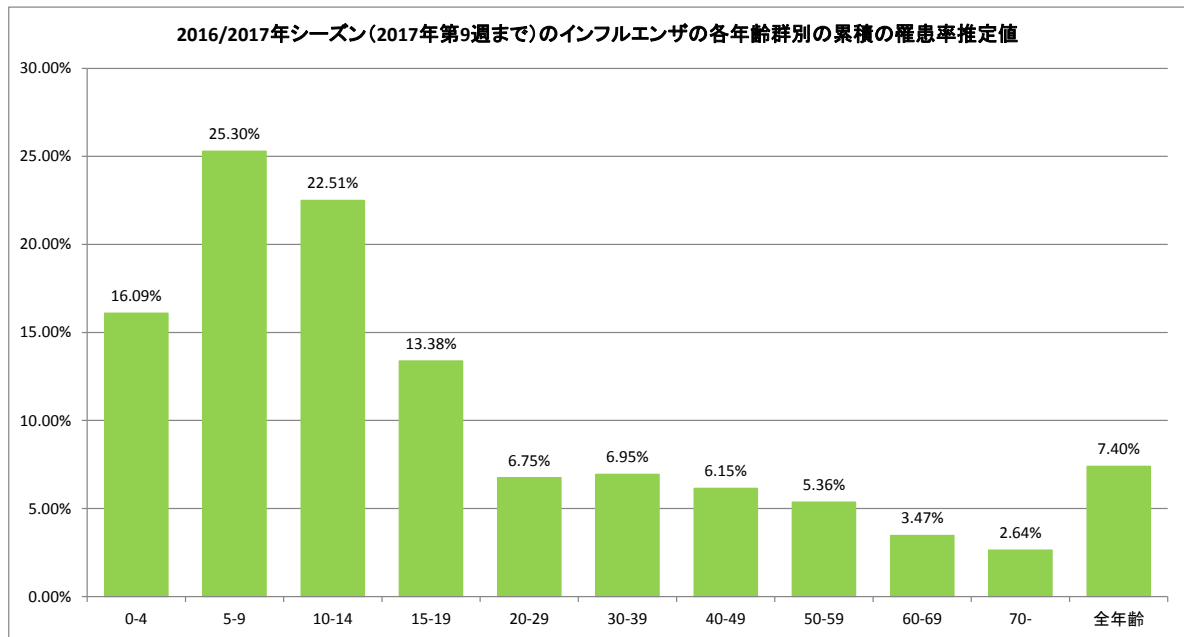


図3. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016年第36~2017年第5週、累積の推定受診患者数総計= 9,394,153)

各都道府県別の2017年第9週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、新潟県、大分県、石川県の順となっており、石川県を除く46都道府県で前週よりも減少が見られました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでにインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(4,089検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が92.2%と大半を占めており、次いでB型4.3%、A/H1pdm3.5%の順となっています。

2017年第9週のインフルエンザの推定受診者数は約48万4000人となり、4週連続で減少が見られました。減少傾向は今後も継続していきませんが、その速度は緩やかなものとなると予想されます。今しばらくはインフルエンザの患者発生の推移に注意が必要です。